

JP04016659

Publication Title:

No title available

Abstract:

Abstract not available for JP04016659

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>

⑫ 公開特許公報(A)

平4-16659

⑤ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)1月21日

E 04 D 13/15

R

7540-2E

審査請求 有 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 破風の化粧構造

⑯ 特 願 平2-122516

⑰ 出 願 平2(1990)5月11日

⑱ 発 明 者 西 尾 智 和 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号 ナショナル住宅産業株式会社内

⑲ 出 願 人 ナショナル住宅産業株式会社 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号

⑳ 代 理 人 弁理士 宮 井 暎 夫

明 細 書

1. 発明の名称

破風の化粧構造

2. 特許請求の範囲

要側面に立設した山形のけらばパネルと、このけらばパネルの外面に固設され上片が前記けらばパネルの上面と平行になるように前記けらばパネルに垂直な回転軸回りに回転可能なカバー係止片を有した下地部材と、前記けらばパネルの上端に沿って設けられ上端を前記カバー係止片の上片に係止して前記下地部材を覆った破風化粧カバー部と前記けらばパネルの上面から前記破風化粧カバー部の上端に渡って覆った雨押え部とからなる雨押え兼破風化粧カバーとを備えた破風の化粧構造。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、切妻屋根等における破風の化粧構造に関するものである。

(従来の技術)

従来例を第4図に示す。図において、50は切

妻屋根であり、51はその要側面に設けた山形のけらばパネルである。けらばパネル51の外面上端には、取付金物52、53が固定されており、これら取付金物52、53に破風化粧カバー54が取付けられる。

(発明が解決しようとする課題)

従来の破風の化粧構造によると、破風化粧カバー54を取付けるための取付金物52、53が、けらばパネル51の左右および屋根勾配の違いに応じて必要であり、部品の種類数が多くなり在庫管理が困難であった。さらに、けらばパネル51と破風化粧カバー54との間から雨水が浸入するのを防ぐために、破風化粧カバー54とは別体の雨押えを設けなければならず、施工性が悪かった。したがって、この発明の目的は、部品の種類数の削減が図れ、かつ施工性の良い破風の化粧構造を提供することである。

(課題を解決するための手段)

この発明の破風の化粧構造は、要側面に立設した山形のけらばパネルと、このけらばパネルの外

面に固設され上片が前記ければパネルの上面と平行になるように前記ければパネルに垂直な回転軸回りに回転可能なカバー係止片を有した下地部材と、前記ければパネルの上端に沿って設けられ上端を前記カバー係止片の上片に係止して前記下地部材を覆った破風化粧カバー部と前記ければパネルの上面から前記破風化粧カバー部の上端に渡って覆った雨押え部とからなる雨押え兼破風化粧カバーとを備えたものである。

(作 用)

この発明の破風の化粧構造によると、雨押え兼破風化粧カバーを取付けるための下地部材が、上片がければパネルの上面と平行になるように回転可能なカバー係止片からなるので、ければパネルの左右の違いや屋根勾配の違いに対処できる。また、破風に設ける雨押え兼破風化粧カバーが、破風化粧カバー部と雨押え部とからなるので、従来のような別体のものに比べ施工性が良くなる。

(実施例)

この発明の一実施例を第1図ないし第3図に基

本12はければパネル16の上端に沿って設けられており、軒先化粧カバー13と同一デザインの破風化粧カバー部26と雨押え部27とから構成されている。破風化粧カバー部26は、上端の折返し部30をカバー係止片20の上片23に引っ掛けてカバー係止片20を覆った上部カバー28と、この上部カバー28の下端に連設され係止突片31に係止して下地本体18の下端まで覆った下部カバー29とから成る。また、雨押え部27はければパネル16の上面25から雨押え載置片22に載置して破風化粧カバー部26の上端にまで渡って設けられ、雨押え載置片22等に固定してある。なお、32は雨押え部27から屋根パネル15間に渡って設けた雨押えである。

このように構成された破風の化粧構造によると、下地部材17のカバー係止片20ならびに雨押え載置片22が下地本体18に回転自在に設けられている。このため、カバー係止片20ならびに雨押え載置片22の上片23、24が、下地部材17を設置した箇所におけるければパネル16の上面

について説明する。

第2図は屋根伏図であり、10は切妻屋根、11は平屋根である。切妻屋根10の妻側端には雨押え兼破風化粧カバー12が設けられ、さらに軒先には軒先化粧カバー13が設けられている。

第1図は、第2図の1-1断面図である。図において、14はたるきであり、15は屋根パネルである。また、16は妻側面に設けた山形のければパネルであり、外面上端には複数の下地部材17が設けられている。下地部材17は、ければパネル16に固定した下地本体18と、この下地本体18にければパネル16に垂直な回転軸19回りに回転自在に取付けたカバー係止片20と、下地本体18の上端にければパネル16に垂直な回転軸21回りに回転自在に取付けた雨押え載置片22とから構成されている。カバー係止片20と雨押え載置片22は、第3図に示すように、それぞれ上片23、24が、下地部材17を設置した箇所のければパネル16の上面25と平行になるように回転させてある。さらに、雨押え兼破風化粧カ

バー25と平行になるように回転できる。したがって、一種類の下地部材17で、ければパネル16の左右の違いや屋根勾配の違いに対処でき、部品の種類数を削減できる。

また、破風に設ける雨押え兼破風化粧カバー12が、破風化粧カバー部26と雨押え部27とからなるので、従来のような別体のものに比べ、取付施工性が向上する。

(発明の効果)

この発明の破風の化粧構造によると、雨押え兼破風化粧カバーを取付けるための下地部材が、上片がければパネルの上面と平行になるように回転可能なカバー係止片からなるので、ければパネルの左右の違いや屋根勾配の違いに対処でき、部品の種類数を削減できる。また、破風に設ける雨押え兼破風化粧カバーが、破風化粧カバー部と雨押え部とからなるので、従来のような別体のものに比べ施工性が良くなるという効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

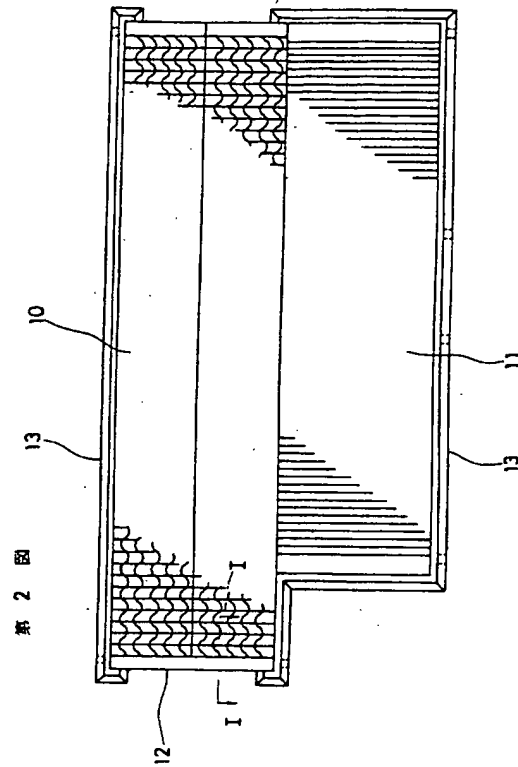
第1図はこの発明の一実施例の断面図、第2図

はその屋根伏図、第3図はその屋根棟部での下地部材の設置状態を示す正面図、第4図は従来例の分解斜視図である。

12…雨押え兼破風化粧カバー、16…けらばパネル、17…下地部材、20…カバー係止片、26…破風化粧カバー部、27…雨押え部

特許出願人 ナショナル住宅産業株式会社

代理人 弁理士 宮井 映夫



第2図

第1図

